

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年7月15日

【評価実施概要】

事業所番号	4071501557
法人名	社会福祉法人 それいゆ
事業所名	グループホーム なかまちの家
所在地 (電話番号)	福岡県大牟田市中町1丁目5-2 (電話) 0944-41-5315
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成20年6月18日

【情報提供票より】(平成20年5月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	15 人
利用定員数計	18 人
常勤	12人, 非常勤 2人, 常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="checkbox"/> 単独 <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (240,000 円)	<input type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有 () 円	<input type="checkbox"/> 有の場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年5月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.4 歳	最低	75 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大牟田共立病院、在宅支援診療所(仲友診療所)、園田歯科、松田歯科医院
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近くに小学校や公園がある住宅地に立地し、介護老人施設やケアハウスと同じ敷地に建っている。施設を運営していく中でその必要性を感じてホームが設立された。法人共通の理念を掲げ、利用者の「願いや思い」「自分らしさ」を大切に、利用者が力を発揮しながら「その人らしい暮らし」ができるよう支援している。設立当初から地域や家族との良好な関係作りに取り組み、地域の一員として行事や活動に参加し、家族会のバックアップを受けている。職員の資質向上や資格取得を支援し、市や他施設の研修を受け入れ社会還元も図っている。看取りや緊急にも対応できる医療システムを整え、家族や地域の連携の中で意欲的にケアの向上に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で、ケアプラン作成時の担当者会議の不備と食事に乳製品の摂取が少ないとの指摘を受けた。職員で話し合っ課題改善に取り組み、3ヵ月毎のプラン更新やプラン見直しには必ず関係者で担当者会議を行うこと、午前・午後のおやつに乳製品を取り入れることが実行されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票は職員に配布し、全職員で話し合われたものを最後に管理者がユニット毎に取りまとめて作成された。自己評価票の作成過程を、一人ひとりの自己点検や意識改革、ホーム運営の見直しなどに役立てている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には地域住民や役員、警察や消防、幼稚園や行政の職員など幅広い分野のメンバーの参加を得て定期的に開催されている。会議には日頃の事業所の活動や現状を報告すると共に、外部評価や自己評価、事業計画書等も開示している。貴重な意見や助言を受け、事業計画の修正等も行った。会議内容は報告書にまとめ、職員会議でも報告しサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族の面会時に記録・ケアプラン・出納帳等の説明・確認・報告を行っている。職員の変動のお知らせもしている。遠方の家族には電話連絡や状況報告書を送付し、日頃の様子を伝えている。開設当初から家族会が設立されており、家族のみの会議の中で意見や要望などが出され、意見等には職員会議で話し合い速やかに対応している。また公的な相談窓口の説明を行い、日頃から意見の言いやすい関係づくりに努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設当時から地域への説明や協力依頼を行い、良好な地域との関係を維持している。利用者は職員と共に地域の清掃や下校時の子供見守り隊の地域活動に参加し、運動会、ゲートボール応援等の行事に招かれ出席している。日常の散歩を始め、隣接する地域交流プラザの催しに参加して地域の人々と交流している。また、地域住民に法人関連の施設見学を呼びかけ、意見や評価をいただく計画を準備している。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員みんなで作り上げた法人共通の「自由な暮らし」「願いや想い」「人との絆」そして「自分らしさを大切に」という理念を掲げている。さらに、地域の関わりの中で「その人らしい暮らし」が実現できるよう職員で話し合い、具体的な事業所の方針を定めて取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホームの見やすい所に掲示し、毎日の申し送りで唱和して意識を深めている。またスタッフ会議やケア検討会でも理念に沿ったケアの見直しを行い、職員は日常ケアの行動規範とし、「その人らしい生活」の実現に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの開設当時から地域への説明や協力依頼により、地域の人々とは良好な関係を維持している。利用者も職員と共に地域の清掃、下校時の子供見守り隊等の地域活動、運動会やゲートボール応援等の行事に参加している。また、隣接する地域交流プラザの催しで地域の人々と交流している。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解して全職員で自己評価に取り組み、自己点検、意識改革、ホーム運営見直しなどに活用している。また、評価の結果は運営推進会議や家族会にも公表し、スタッフ会議で検討して直ちに課題改善に取り組み、サービスの質の向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民と役員、警察・消防署員、幼稚園、市・包括支援センター職員等のメンバーと利用者・家族を交え、奇数月に開催している。会議には外部評価や自己評価、事業所の運営や現状を報告し、意見や助言を頂いている。会議内容は報告書にまとめ、職員会議で検討してサービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員の新人研修を受託すると共に、家族会主催の講習会に市職員を講師として招き、家族や職員と意見交換を行っている。また介護相談員の会議や研修会に出席し、包括支援センターや市の担当職員と常に連携しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は新人研修で学ぶと共に、法人内研修や外部研修に参加して制度の理解を深めている。必要な家族には説明を行い、包括支援センター職員と連携しながら利用できるしくみを作っている。現在、2名の利用者が活用している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に記録・ケアプラン・出納帳等の説明・確認・報告を行っている。職員の異動のお知らせもしている。遠方の家族には電話連絡や定期的な状況報告書送付を行っている。行事や生活場面の写真を個人アルバムに収め、日頃の様子を確認できるようにしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの開設当初から家族会が設立されており、家族の自主運営により2ヶ月に1度家族会が開かれている。家族のみの会議の中で貴重な意見や要望、苦情が出され、それがホームの運営に反映されている。公的な相談窓口の掲示や説明を行い、意見の言いやすい家族との関係作りに努めている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者は少ないが職員の資質向上のための法人内異動があり、異動は利用者に説明し家族会で報告を行う。申し送りや引き継ぎを十分に行い、利用者と共に送別会や歓迎会を行っている。異動後は職員、利用者とも互いに訪問しあい、関係性を継続しながら徐々に距離を置くように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用には年齢や性別による差別、排除はない。新規採用者は研修で各部署を体験後に個々にあった部署に配置し、能力を発揮し生き生きと長く働けるように配慮している。職員の希望を取り入れて勤務ローテーションを組み、休みの変更も認めている。職員が研修や社会参加しやすいように職場環境を整えている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	新人研修や法人内での接遇・人権研修に職員全員が参加し、外部研修での研修報告を回覧して学習している。また日頃からケアを通じて人権意識を深めるように取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修にはオリエンテーションや基礎研修、各部署での体験学習を組み入れた教育制度を設けている。法人の内部研修や段階に応じた外部研修を勧め、職員の資質向上を図っている。また、資格取得等には負担軽減のしくみを準備して支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に会員登録し、県や市の研修会や交流会に参加して意見交換を行い交流を図っている。また、他事業所訪問や研修の受け入れを行い、実習報告会に出席して外部からの意見や気づきをサービス向上に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に自宅を訪問したり、家族と共に見学に来てホームの概要や雰囲気を理解してもらっている。認知症対応のデイサービスを利用しながら職員や他の利用者と顔なじみとなるよう、また入居にあたっては家族と相談して馴染みの物を数多く持ち込んでもらい、混乱や不安を軽減するように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で買い物や掃除、調理や後片づけ等の家事を一緒に行い、料理の味付けや浴衣の仕立て、着付けなどを教わっている。新人職員が利用者に教えてもらうこともあり、飼っている3匹の愛犬も含めて生活を共にしながら、互いに助け合い信頼関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	大牟田方式のアセスメントシートを活用し、家族からの聞き取りや日常生活の中で何気なく言葉にした生活歴や思いをメモに残し、職員で共有している。意思の疎通が困難な方には、表情や行動からその思いや希望を汲み取って対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	かかりつけの医師や家族から事前に意見や希望を聞き取り、担当職員、ホーム長、看護師、ケアマネジャー、管理者が担当者会議で話し合い、検討したことを基に担当者がケアプランを作成している。家族の参加を望んでいるが、時間的な問題もあり実現していない。	○	基本的に3ヶ月に1度、18時頃から担当者会議を行っている。毎回でなくても1年に1回でも家族が参加できるよう検討されることが望まれる。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月ケア会議を開き、利用者一人ひとりの状態に合わせた現状に沿うプランの見直しを行っている。3ヶ月ごとに定期的に担当者会議で見直しを行っているが、入院などにより心身状態に変化が生じた時は、速やかに職員会議で検討して見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望に応じて買い物や受診の付き添い支援を行っている。遠方からの家族面会には、食事を提供して宿泊受け入れも行っている。また認知症対応型通所介護の指定を受けており、デイサービスを受け入れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の以前からのかかりつけ医との関係を大切にしている。入居時に家族や本人に希望を確認し、それぞれ希望する病院へ状態報告書を提出して受診や往診を支援している。法人母体である協力病院への受診や検査、入院等の体制を整え、在宅支援診療所とも連携して緊急時の往診に備えている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族や利用者の意向を聞き取り、その後の状態に応じて「医療受診確認書」にて話し合いを行っている。看取りの希望がある場合は「看取り同意書」を交わし、主治医や家族と何度でも話し合って職員全員で方針を共有し、支援を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対しては、親しみを込めながらも尊敬を持って接している。利用者の性格を把握し、排泄介助には特に気配りをしている。個人記録等はフロアの所定の棚に個人名が直接見えないように配慮して、保管されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	頭の体操や回想法などの週間行事は計画されているが、一人ひとりの希望や状態にあった過し方を大事にしている。手芸をしたり、犬と遊んだり、入浴の時間も希望に応じたり、朝市の買い物や山登り等の急な希望にも職員が協力して対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	冷蔵庫の食材を見て、利用者の希望を取り入れてその日のメニューを決めている。下拵えから調理、後片づけまで職員と共に行い、一緒に食事を楽しんでいる。1日と15日にはお赤飯とお刺身の献立で、日付の意識付けをしてもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後から入浴できるように準備し、利用者の希望の時間や好みの湯温を把握してマンツーマンで支援している。好きな入浴剤を使用したり、仲良しのペアで入浴することもあり、希望により夕食後に入浴することもできる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	献立作成のアドバイス、食材の下準備、調理の味付け、菜園の野菜づくりや手芸の刺し子など、一人ひとりの利用者が得意なことで楽しみながら自分の役割が果たせるよう支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	犬を伴っての近所への散歩、野菜畑の手入れや収穫、朝市の買い物や山登り等、利用者のその日の体調や希望に沿った支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は21時から翌朝の7時半までは施錠しているが、昼間は自由に出入りができる。玄関にチャイムを取り付け、フロアや各居室もオープンにしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は法人合同で年1回、当事業所のみで1回、夜間を想定した訓練を行っている。家族会や地域にも働きかけて協力を体制を整えている。また防災点検表で毎日ホーム内の点検を行い、火を出さないように取り組んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日体調を確認し、食事摂取量は個人別に毎食記録している。管理栄養士に栄養バランスの助言を受けたり、月に1度は体重測定を行っている。また1日に5~6回、食後やティータイム等で十分な水分摂取を心がけている。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には庭に咲く花が飾られ、共用のフロアには昔懐かしい道具や家具が置かれて落ち着いた大正ロマンの雰囲気がある。キッチンカウンターの前は食堂とリビングになっており、利用者がのびのびとくつろいで談話できる空間になっている。ベランダからは季節の花や畑の作物の様子も眺められる。		

福岡県 グループホーム なかまちの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅と同じような生活が送れるよう家族と相談し、タンスや茶碗、箸などの馴染みの物品や仏壇などが持ち込まれている。各居室にはベランダやトイレと洗面所の設備があり、出入口には好みの暖簾をかけて居心地よく過ごせるように支援している。</p>		